令和８年度障害者雇用「事例から学ぶワークショップ」

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION



働きたい人の「できる」と、企業の今ある仕事を「つなぐ」

超短時間雇用に学ぶ、新しい人材活用のかたち





超短時間雇用モデルの提唱者・近藤武夫教授(東京大学)とともに、
人手が足りない企業と働きたい人をつなぎ課題解決を目指す、
新しい仕組みの可能性について考えます。



開催概要・プログラム

参加無料　定員50名

令和8年11月13日(金)
13:30～16:30(開場 13:00)

会場　浜田市総合福祉センター・会議室(２階)
(浜田市野原町 859－1)

対象　企業経営者や人事担当者、福祉･教育機関関係者

（１）行政説明

浜田市・江津市における雇用情勢と障害者雇用
講師　浜田公共職業安定所 雇用指導官
福冨 弘崇 氏

（２）実践報告

一人ひとりの「できる」を仕事につなげる
～多様な人材が活躍する浅利観光の取り組み
講師　浅利観光株式会社 専務取締役
植田 恵子 氏



松江市出身。大学卒業後、シンガポール航空の客室乗務員として海外で勤務。その後、島根に戻り、縁結び観光協会で観光プランナーを経験し、現在は、観光を通じた地域の活性化に取り組んでいる。

（３）講演

超短時間雇用に学ぶ、新しい人材活用のかたち
講師　東京大学先端科学技術研究センター 教授
近藤 武夫 氏

（４）グループワーク

小規模のグループに分かれての意見交換

東京大学先端科学技術研究センター
社会包摂システム分野　**近藤 武夫 教授**



広島大学助教、米国ワシントン大学客員研究員等を経て現職。
2007 年に開始した、障害のある子どもたちの学びを支援する DO-IT Japan のディレクターを務め、「本来、雇用というのは労働時間の長さとは関係ないはず」という考えから、超短時間雇用モデルを提唱。日本の雇用に少ない職務定義書の慣習を取り入れ、障害のある人が得意な部分を生かして働ける仕組みをつくり、全国の自治体で導入が進んでいる。
著書に『知のバリアフリー』(京都大学出版会)、『情報社会のユニバーサルデザイン』(放送大学教育振興会)、『バリアフリー・コンフリクト』(東京大学出版会)、『学校での ICT 利用による読み書き支援』(金子書房)、『やさしい雇用へのアプローチ』(川崎市) ほか。

「超短時間雇用」とは？

超短時間雇用とは、週 15 分程度の短い時間から始められる、新しい雇用のかたちです。
企業の業務の一部を具体的な仕事として切り出し、最低賃金以上の対価を支払う正式な「雇用」として、障がいや高齢、介護・育児などの事情でフルタイム勤務が難しい方に働く機会を生み出す仕組みで、川崎市・神戸市・南あわじ市など、全国の自治体で導入が進んでいます。

申込方法　二次元コードを読み取り、申込フォームより必要事項をご入力ください。
申込期限　令和８年11月5日 (木)

主催　浜田圏域自立支援協議会就労支援部会
後援　浜田市、江津市、島根県中小企業家同友会、
特定非営利活動法人全国精神保健職親会

お問い合せ　浜田障害者就業・生活支援センター レント
(0855)22-4141　lento@juno.ocn.ne.jp